

(ご参考事例) 都市と生活の将来、の共同研究PJ

「大都市の生活構造の将来をめぐる研究会」

- 米国・A州立大学と日本・B大学の都市工学研究者の共同研究会に参加した企業が、逆にB大・都市工学科人脈を囲む形で開始(1991年～1998年)
- 座長:C氏(B大 名誉教授(当時))
 - 以下、現役教授～他大講師まで10名程度(いずれも当時)
- 参加企業5社。事務局出向計3名(出向先としてはB大大学院内研究所、オフィスはV生保内)
 - Z総研(前身研究会を主催)、Y建設、X銀行(政府系)、W信託銀行、V生命保険
 - 各社の役員層／中堅層／若手層 が数名ずつ参加
- 参加企業120万円＋個人会員の会費＋社員手弁当

座長＋役員層＋別途会員＋ゲスト の異文化交流勉強会

教授＋若手学者＋若手社員 のゼミ風勉強会 計3つ
; 都市生活者行動、環境と防災、高齢社会と情報

独自の定量調査、ヒアリング等(事務局仕切り)

複数年次とりまとめた出版物

各社協賛(別途)での
シンポジウムシリーズ
⇒新聞記事体広告で掲載

各社広報誌での特集化

研究論文の学会等発表